

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第49号(平成30年4月発行)

平成29年10月18日(水)に平成29年第3回定例会が開会され、10月26日(木)に一般質問と議案1件、認定2件の審議が行われました。

一般質問では、樋口博己議員(四日市市議会選出)と下野幸助議員(三重県議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

樋口 博己 議員



○ **横浜港をモデルケースとしてLNGバンカリング拠点整備の検討が進められているが、四日市港における課題や方向性を伺いたい。また、伊勢湾として、勉強会を立ち上げてはどうか。**

◎ 現在、北米沿岸などにおいてコンテナ船、自動車船、客船等のLNG燃料船が就航しており、アジア地域においても今後の規制強化に伴い、LNG燃料船の普及が見込まれている。

LNG燃料船への燃料供給に対応するLNGバンカリング拠点形成に向けては、横浜港で民間企業、横浜市、国の機関が参画する検討会によりLNG燃料船を取り巻く動向等がとりまとめられ、今後も拠点整備に向けた検討が進められると聞いている。また、神戸港でも、行政や民間企業による検討会が設置されている。

四日市港は港にLNG基地を有するなどLNGバンカリングの高いポテンシャルがあり、港湾サービスのさらなる向上による寄港促進、「環境にやさしいみなど・四日市港」の点からも重要な取組の一つであるが、法規制や安全対策などについて調査・検討が必要と考える。関係者などへのヒアリングを開始したところであり、今後は国や先進港等の動向を注視し、課題解決に向け勉強会の場を設けるなど検討していく。

下野 幸助 議員



○ **臨港道路霞4号幹線の整備完了後は、将来構想となっている霞ヶ浦地区からの南向き道路の具体化に向け、地元関係者と協議するとともに、国とも連携して取り組んでいくべきではないか。**

◎ 霞ヶ浦地区からの南向き道路については、四日市港長期構想において、「南方面への道路を検討する・・・」こととしている。

南向き道路と他の高規格道路網等々が連携すれば、四日市港の利便性はさらに向上すると考えられるが、具体化に当たっては、交通需要や費用対効果、環境に対する影響の検証、ルート選定に係る調査・調整や、船舶の航行安全、周辺への影響についての対策が必要であり、事業費は膨大な額となると予想される。

こういったことから、既存の道路交通体系を見据えた上で、南向き道路については中長期的な課題と捉え、全体的な臨港交通体系の中で将来的な構想として、霞4号幹線の整備効果も検証しながら国と意見交換を行っていく。

白子地区をはじめ鈴鹿市地域の方は、南のところで高速道路に結節する道路ができることが悲願であるという気持ちははっきり受けとめつつも、様々な道路の整備の効果なども検証しながら、国との意見交換を行っていくということでやっていきたい。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。